

地域計画

策定年月日	令和7年3月28日
更新年月日	()
目標年度	令和12年度
市町村名 (市町村コード)	平川市 (22101)
地域名 (地域内農業集落名)	碓ヶ関①地区 (碓ヶ関、民部平、久吉、古懸)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	330.1 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	269.6 ha
② 田の面積	102.8 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	227.3 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	131.5 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	117.2 ha
(参考)区域内における〇才以上の農業者の農地面積の合計	ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)	

注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。

2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。

3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。

4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。

5:(参考)の区域内における〇才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。

6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

- ・若い世代の人口流出が続き、後継者不足が深刻である。
- ・労働力が不足し、農地を維持することで精一杯である。
- ・冬期間の豪雪や春先の降霜など気候条件が悪く、農業で安定した収入を得るのが難しい。
- ・中山間組織で罨による対策を行っているものの、熊被害が増加傾向にあり、山手では耕作しづらい。
- ・出し手の農地は地理的条件が悪いことが多く、集約が困難である。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

水稻・りんごともに拡大志向の農家へ集積・集約を図る。
りんごでは、「剪定作業ができなくなった」ことを理由にリタイアする農業者が多いため、剪定作業員の確保により地域農業を維持する。
また、鳥獣被害のある山手の農地は中山間組織等による対策を継続する。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1) 農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針

農地中間管理機構への貸し付けを進めつつ、大規模農家への集積・集約化を基本としつつ、大規模農家の農作業に支障がない範囲でその他農業を担う者により農地利用を進める。また、鳥獣被害が大きい農地は保全管理を行う区域とする。

(2) 担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標

現状の集積率	39.8 %	将来の目標とする集積率	75.3 %
--------	--------	-------------	--------

